

# 泉南アスベスト国会通信

●大阪・泉南アスベスト国賠訴訟原告団 / 弁護団

## 早期解決にむけて 国の政治決断をせまる！

### 院内集会に50人の国会議員集う(9日)



参議院議員会館会議室をいっぱいにした院内集会(9日)

控訴審の三浦潤裁判長は、1月13日の裁判において、国に対し「進行協議期日までに、国の和解に対する見解を明らかにすること」と要請しました。その進行協議期日(2月22日)を2週間後に控えた去る2月9日、原告団・弁護団は、参議院議員会館において「泉南アスベスト国賠訴訟の早期全面解決を求める院内集会」を開催しました。院内集会には、国会開催中のお忙しいなかを超党派の約50名の国会議員の方々(本人出席17名、秘書の皆さんの出席を含む)をはじめ、全体で約130名の出席をいただきました。はじめに、昨年12月、解決をみるこ

となく旅だった前川清さんが強く早期解決を待ち望んでいた様子を写したニュース映像が流され、夫を中皮腫で失った原告湖山さんから原告らの深刻な被害と早期解決の訴えがあり、続いて出席の各国会議員の方から挨拶をいただきました。

国会議員の方々からは、国に対して、早期解決に向けてあらゆる努力を行っていきたい、今度こそ解決に向けて力になりたいなど、力強い激励と決意の挨拶をいただきました。

最後に、原告代表の箕田さんから、早期解決に向けて、今度こそ右にかじりついても頑張り抜きたいと決意が表明されました。

### 菅首相、聞いてください

院内集会のあと、首相官邸前では、原告、弁護士らが次々とマイクをにぎり訴えました。「菅首相、聞いてください。原告の健康状態はどんどん悪くなっています。裁判を長引かせて、原告・被害者をこれ以上苦しめないでください。必死の訴えが官邸前に響きました。この訴えは、官邸内の菅首相にも届いたことと思います。さらに、夕方は、厚労省・環境省前に移動し、退庁時の職員の皆さんに宣伝

しました。夕闇、寒風吹きすさぶなかでの熱心な宣伝に、「苦労様」と声をかける方も大勢いました。

### 生きているうちに解決を！

22日の大阪高裁の進行協議まで後1週間しかありません。「生きているうちに解決を」は原告ら被害者の切実な願いです。国の早期解決の決断は、多くの被害者に希望の光を与えます。私たちは、国の賢明な判断を期待し、力の限りその実現にむけて頑張りま

### 原告の解決要求

- ① 国の責任の明確化と被害者への謝罪
- ② 国による正当な賠償(判決の水準を基本にした損害賠償)
- ③ 原告全員(第1陣訴訟・第2陣訴訟)の一括解決
- ④ 国による解決金の支払い
- ⑤ 原告以外の泉南アスベスト被害者の救済

# 泉南アスベスト国会通信

●大阪・泉南アスベスト国賠訴訟原告団 / 弁護団

シリーズ

## 原告たちの声を聞いてください

泉南アスベスト国家賠償請求原告 松島正芳さん

15歳のときから無我夢中でした石綿の仕事で、いま石綿肺に苦しんでいます

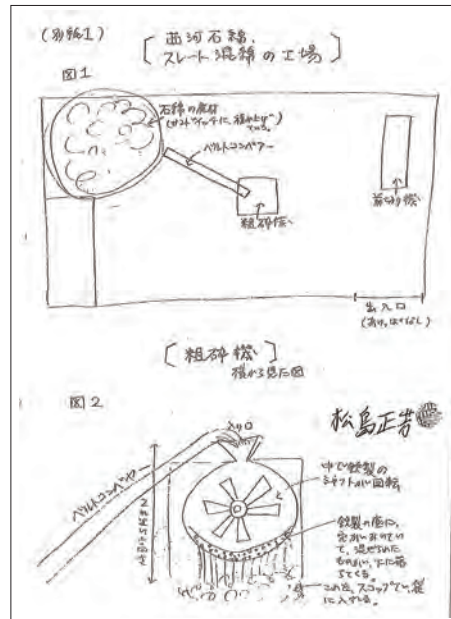
昭和32年、15歳のときから約10年間、泉南の石綿工場で働きました。

私をはじめにしたのは「スレート混綿」といわれる作業でした。

石綿の入ったスレートの廃材、石綿布のくず、落ち綿などを、粗砕機という機械で碎いて混ぜ、袋詰めにする作業でした。袋の両端を2人で持って広げ、別の2人が、機械で粉碎した材料をスコップですくい上げて放り込みます。粉じんがモウモウと舞い上がり、頭、顔、身体全体がホコリまみれになりました。もう1人が、袋の中に素手を突っ込んで材料を押さえ込むのですが、ホコリで目が開けられませんでした。私は、口元から後頭部にかけてタオルを巻いていまし

たが、口の中はホコリでざらざらして、鼻の中も黒くなっていました。

18歳のころからは、「カード」の作業をしました。「カード」の作業は、石綿と綿を混ぜ合わせ、素手でつかんでカード機の手前の台の上と並べます。動いているカード機からもホコリが吹き出てきます。身体全体が上から下まで真っ白になりました。工場が休みの日は、カード機の「針研ぎ」の作業もしました。金属製のブラシを、回転しているシリンドラーに手で押



松島さんが描いた当時の工場の機械

ところ、「石綿肺(じん肺管理区分3)」と診断されてしまいました。今では、階段を上るとしんどくなり、息が止まりそうになります。こういう時は、とにかく、息ができるようになるまで、じっとしていな

ればなりません。お風呂で身体にお湯をかけるだけで、フーツと息を付くような状態になります。髪を洗う時も、頭からお湯かぶることとはできません。シャワーを頭にかけてながら、手でゆつくりゆつくり洗うようにします。近所の方が健康のために散歩をしたら、とよく誘ってくれますが、そんなことはできません。私自身もとは元気で、何事もさつきとする性分でしたが、今は身体がいうことをききません。今は、特に身体を動かさなくても、いつも胸が詰まっているような感じがします。

私は、15歳の時から無我夢中で石綿の仕事をしました。こんな病気になることをわかっていたら、あんな石綿のほこりを浴びるような仕事はしませんでした。誰もあんな仕事はしなかったと思います。当時の同僚や職場の人が何人も肺の病気で亡くなっています。自分も同じようになるのではないかと思うと不安でたまりません。国は一刻も早く責任を認め、全ての石綿被害者に謝罪と補償をしてほしいと思います。

### 大阪・泉南アスベスト国賠訴訟とは

大阪府泉南地域では、約100年にわたって石綿紡織業が発展し、戦前から地域ぐるみのアスベスト被害が広範かつ深刻に進行しました。2006年5月、石綿工場の元従業員や家族、近隣住民などが、アスベスト被害について国の責任を問う全国初の国賠訴訟を提起。2010年5月19日、大阪地裁は国の責任を認め、26人に総額約4億3500万円の賠償を命じました。国が控訴したため原告も控訴し、第1陣訴訟(原告31人・被害者26人)が大阪高裁に、第2陣訴訟(原告30人・被害者21人)が大阪地裁に係属中です。高裁は被告国に、2月22日に開く進行協議には、和解協議に応じるかどうか国の態度を明らかにするよう求めました。(2011年2月9日現在)。

し当てる、こびり付いている石綿のくずを削ぎ取ります。高速で回転するシリンドラーからものすごい石綿のホコリが飛び散り、それが顔に強くあたって痛いほどでした。私はこんな仕事を、ほとんど休まず10年間続けました。平成18年、私が65歳になったころから、咳や痰が出て息苦しさを感ずるようになりました。ゴミ出しをするため、自宅からゴミ袋を下げて10数メートル歩いただけで、息がはーはー、ふーふーというようになりまし。最初それに気付いたときは、自分でも何でこんなことで息が上がるのかとびつくりしました。「泉南石綿市民の会」から紹介された医師に診てもらった